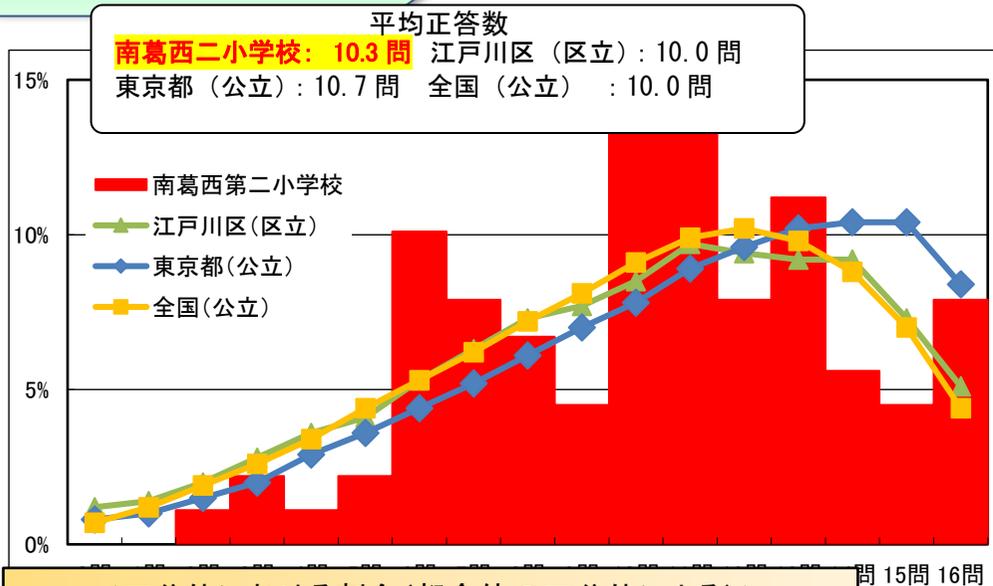


令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】南葛西第二小学校

正答数分布



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

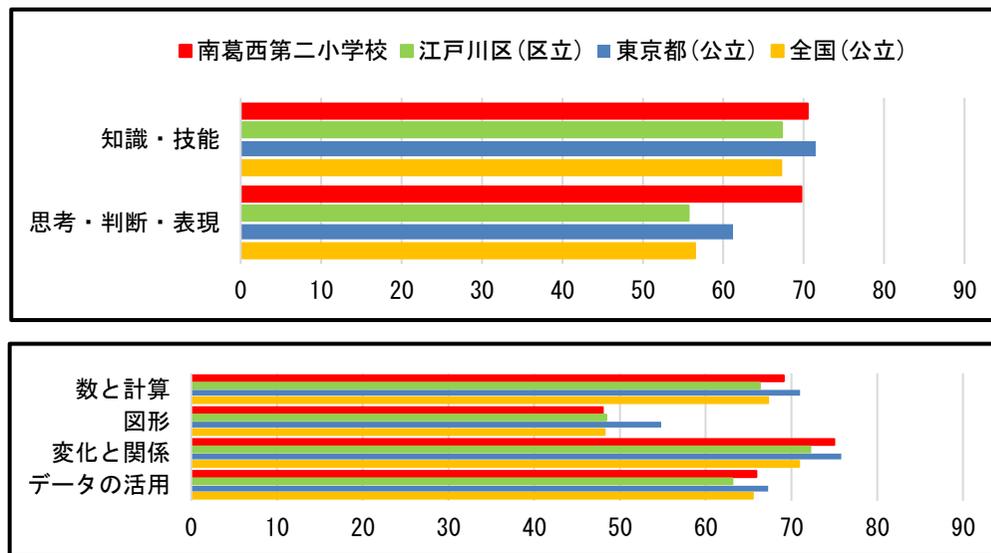
算数	上位 ←		→ 下位	
	A層 14～16問	B層 11～13問	C層 8～10問	D層 0～7問
南葛西第二小学校	18.0	32.6	24.7	24.7
江戸川区（区立）	21.6	28.3	23.5	26.6
東京都（公立）	29.2	28.7	20.9	21.2
全国（公立）	20.2	29.9	24.4	25.5

【平均正答率の差】

南葛西第二小学校	64%
江戸川区（区立）	62%
東京都（公立）	67%
全国（公立）	62.5%
都との差	-3ポイント

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【分析結果と授業改善に向けて】

どの領域も、都の平均値より低い。特に低かったのが「図形」である。調査問題は、底辺と高さが同じ二等辺三角形と細長い三角形の面積が同じであることを説明するもの。原因として、言葉の理解が不十分で、問題文の意味が分からないこと、問題がストーリーになっているので、話の筋を読み取れていないことが考えられる。課題を解決するために、教科の言葉を意味も分からせながら解かせる、問題文から分かることや数字をイラストに書き込ませ、具体的にイメージしてから解くように指導していく。記述式問題は、数字を置き換える問題、理由を書く問題、求め方を書く問題があることを意識させ、授業でも扱うようにしていく。